

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
408	独立行政法人酒類総合研究所
題名 (原題/訳)	
Light and moderate alcohol consumption significantly reduces the prevalence of fatty liver in the Japanese male population. 日本人男性集団において軽度から中程度のアルコール摂取が脂肪肝有病率を有意に減少させる	
執筆者	
Gunji T, Matsuhashi N, Sato H, Fujibayashi K, Okumura M, Sasabe N, Urabe A.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Gastroenterol. 2009 Sep;104(9):2189-95.	
キーワード	
日本人男性、アルコール摂取、脂肪肝	
要 旨	
<p>肝臓に対するアルコール摂取の影響については議論が多い。近年の報告では、中程度のアルコール摂取がアラニンアミノトランスフェラーゼレベルの上昇を減少させることを示唆している。脂肪肝進行におけるアルコール摂取の役割については明らかにはされていない。本研究の目的は大規模な日本人集団におけるアルコール摂取と脂肪肝の関係について調べることである。2007年5月から2008年7月の間に筆者らの機関で完全な医療調査を受けた合計7431名の無症状の男性被験者を集めた。B型またはC型肝炎ウイルス陽性のもの、肝毒性薬剤摂取の可能性のあるもの、代謝異常の治療中のものは排除した。脂肪肝は超音波検査によって調べた。内蔵と皮下脂肪組織はコンピューター断層撮影によって測定した。脂肪肝に相関がある独立した有意な予測因子を多重ロジスティック回帰分析によって決定した。最初の研究の調査対象の中で130名がB型肝炎陽性(1.7%)、66名がC型肝炎陽性(0.8%)であった。5599名の男性(50.9±8.1歳)について断面的に研究を行った。潜在的交絡変数で調整後、多変量解析によって軽度(40-140g/週当たり)、重度(140-280g/週当たり)のアルコール摂取は有意にそして独立して脂肪肝の可能性を減少させることがわかった(それぞれオッズ比=0.824と0.754、95%信頼区間=0.683-0.994と0.612-0.928、<math>p=0.044</math>と0.008)。内蔵脂肪、皮下脂肪、低密度リポタンパク質、トリグリセリド、空腹時血糖は脂肪肝の有病率の増加の有意な予測因子であったが、年齢は脂肪肝の有病率の減少の予測因子であった。</p>	